

## JP114 雲出川・愛宕川・金剛川河口

(くもずがわ・あたごがわ・こんごうがわかこう)

三重県：松阪市、津市

位置	N 34° 37′ E136° 33′
面積	1,200ha

### 環境構成【河口／干潟／砂浜／湿地（水田・溜池など）】

一級河川雲出川、櫛田川の2大河川に挟まれた海域に金剛川、愛宕川、三渡川、阪内川、小河川が集中して流れ込み、浅海では藻場や広大な干潟を形成している。そのため、貝類やノリ養殖などの好漁場となっており、人間生活と密着した「里海」海域である。周辺には水田が広がり、水路が張り巡らされ、池や、ウナギ養殖池が各所に残存する。また、池周辺や河口部には狭小ではあるがヨシ原が見られる。干潟は河川によりわずかに泥質、砂質の違いがある。そのため、魚類、貝類、甲殻類などの住み分けが見られ、結果として野鳥にとって多種多様な餌生物が得られる場所でもある。沿岸部では稀少植物のハマボウ（この付近が自生の北限）の他、センダン、エノキ、ハゼノキなどの疎林、高水敷にオギやセイタカアワダチソウなどの群落、砂浜にハマヒルガオ、ハマボウフウ、ハマゴウなどの海浜植物の植生が見られる。



写真提供：小坂里香

### 選定理由

A4i	キアシシギ・チュウシャクシギ
-----	----------------

### 保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか（10パーセント未満）である

### 保全への脅威

- ・農地・水田の放棄、ため池の埋立、養鰻池の宅地化
- ・堤防の改修、浚渫などの工事が進められている
- ・干潟への過度な人の立ち入り
- ・太陽光パネル設置（ただしキアシシギ、チュウシャクシギには影響なし。淡水性のシギに影響あり）

- ・堤防より、陸側にある湿地の埋め立て（金剛川河口）（キアシシギ等には影響ないが、淡水生のシギなどに影響する。）

### 鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化  
変わらない
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有  
＜調査データの入手方法＞  
環境省シギ・チドリカウントデータ、＝速報およびデータベース、  
当会ミヤコドリカウント＝会報参照
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：  
変化がある
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：  
普通（70～90%が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：無

### **保全活動**

- ・ 環境教育活動：実施者（日本野鳥の会三重）  
内容：探鳥会
- ・ モニタリング調査：  
内容：環境省シギ・チドリカウント  
渡り鳥調査などの調査研究活動（日本野鳥の会三重）
- ・ 環境管理：実施者（日本野鳥の会三重）  
内容：清掃活動

### IBA サイトの保全に関する地域のグループ

- ・ 日本野鳥の会三重

## 見られる鳥

### 雲出川河口部

年間を通じて優占しているのはカワウであり、沿岸漁業への脅威にもなっている。越冬期のカモ・カモメ類の飛来も多い。カモはオナガガモ、ヒドリガモ、マガモの3種が多く、ほかにキンクロハジロ、ホシハジロなどが若干上流部や内陸のため池などに多く飛来している。スズガモの大群も沖合に見られ、狩猟期間終了後は海岸部の池にはいることもある。天然記念物のコクガンや、ツクシガモ、トモエガモなどの稀少な種も数羽観察される。

カモメ類はセグロカモメ類、ユリカモメ、ウミネコが多いが、ズグロカモメも数羽が毎年見られる。また、この付近では、毎年ミヤコドリが越冬する。近年個体数が増加しており、ここ2、3年は30羽前後にまで増えている。この個体群は、約20km北に位置する安濃川・志登茂川河口部との間を干潟や餌の状況により往来しているものと見られる。

渡りの時期には多数のシギ・チドリ類が通過し、ホウロクシギ、オオソリハシシギ、オグロシギ、チュウシャクシギ、オバシギ、コオバシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、ハマシギ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリなど多種類が見られるが、近年その数は減少気味である。稀少なヘラシギや、カラフトアオアシシギなどの記録もある。

また、内陸部では、湛水された水田や湿地などにトウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、タカブシギ、アオアシシギ、ツルシギ、セイタカシギ、エリマキシギ、ジシギ類、ムナグロなど淡水を好むシギ・チドリ類も羽を休めていく。冬期はタシギ、アオアシシギのほか、セイタカシギ、オオハシシギの越冬個体も見られる。ほかに、近年はオオバンの越冬も多い。

これらの野鳥を追って、オオタカ、ハヤブサも飛来する。ほかに猛禽としてチュウヒも1～2個体、チョウゲンボウ、コチョウゲンボウも数個体越冬しているようである。トビ、ミサゴは年間を通して見られる。

夏期、内陸の湿地ではカイツブリ、カルガモ、バン、カワセミなどが繁殖し、サギ類が多く見られる。夏鳥としては、オオヨシキリが飛来しているが、繁殖地のアシ原は年々開発されて減少している。

金剛川  
・櫛田川河口

特筆すべき種は、ズグロカモメである。主食となる小型の甲殻類が豊富なのか、11 月ころより飛来し、干潮を待ちきれないように独特の飛翔でカニ(ヤマトオサガニなど)を捕っている姿がよく見られる。1カ所で同時に 20 羽以上観察され、北部九州以外でのまとまった越冬地として注目されている。合流部の干潟は広大で、干潮時は観察が困難であるが、雲出川河口と同様な種が観察できる。特に、キアシシギ、チュウシャクシギの飛来数は多く、満潮時には石積みの上にひしめいているのが見られることもある。

また、希少種であるクロツラヘラサギ、シベリアオオハシシギの記録もある。

合流地点のヨシ原に囲まれた池はカモ類、カイツブリなどが見られるほか、淡水性のシギ・チドリ類の絶好の休息場となっており、ヨシの中ではオオジュリン、ツリスガラが見られオオヨシキリが繁殖するが、個人所有のため、将来に渡って保全される保証がないのが現状である。また、金剛川河口のヨシ原は広くはないものの、チュウヒの越冬場所になっていると見られ、夏期にはヒクイナの繁殖の可能性もある。

関連団体・自治体・施設等

- ・日本野鳥の会三重



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeBCo, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community